

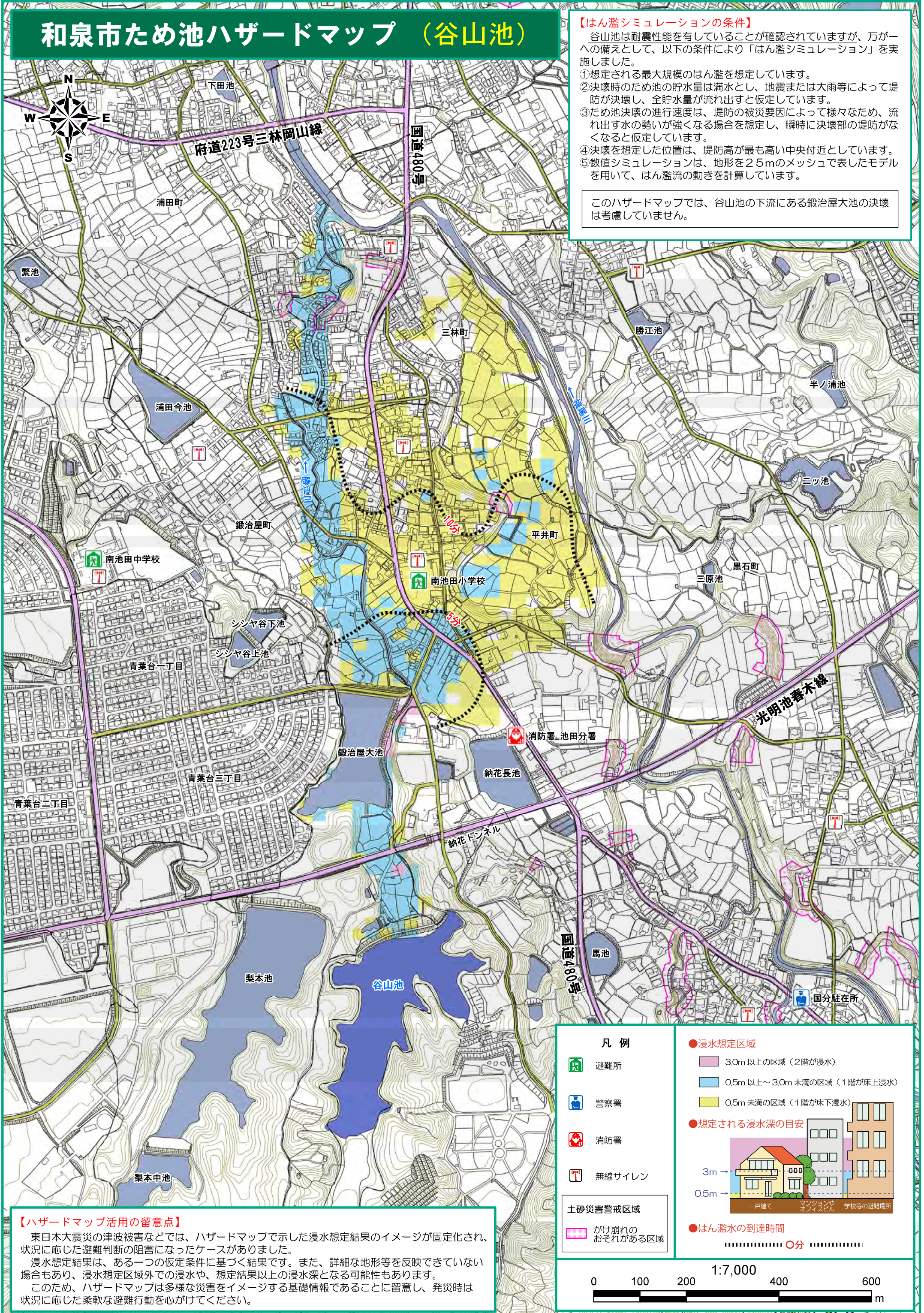
和泉市ため池ハザードマップ（谷山池）

【はん濫シミュレーションの条件】

谷山池は耐震性能を有していることが確認されていますが、万が一への備えとして、以下の条件により「はん濫シミュレーション」を実施しました。

- ①想定される最大規模のはん濫を想定しています。
- ②決壊時のため池の貯水量は満水とし、地震または大雨等によって堤防が決壊し、全貯水量が流れ出すと仮定しています。
- ③ため池決壊の進行速度は、堤防の被災要因によって様々なため、流れ出す水の勢いが強くなる場合を想定し、瞬時に決壊部の堤防がなくなると仮定しています。
- ④決壊を想定した位置は、堤防高が最も高い中央付近としています。
- ⑤数値シミュレーションは、地形を25mのメッシュで表したモデルを用いて、はん濫流の動きを計算しています。

このハザードマップでは、谷山池の下流にある鍛冶屋大池の決壊は考慮していません。



【ハザードマップ活用の留意点】

東日本大震災の津波被害などでは、ハザードマップで示した浸水想定結果のイメージが固定化され、状況に応じた避難判断の阻害になったケースがありました。浸水想定結果は、ある一つの仮定条件に基づく結果です。また、詳細な地形等を反映できていない場合もあり、浸水想定区域外での浸水や、想定結果以上の浸水深となる可能性もあります。このため、ハザードマップは多様な災害をイメージする基礎情報であることに留意し、発災時は状況に応じた柔軟な避難行動を心がけてください。

凡例

- 避難所
- 警察署
- 消防署
- 無線サイレン
- 土砂災害警戒区域
- がけ崩れのおそれがある区域
- 浸水想定区域
 - 3.0m以上の区域（2階が浸水）
 - 0.5m以上～3.0m未満の区域（1階が床上浸水）
 - 0.5m未満の区域（1階が床下浸水）
- 想定される浸水深の目安
- はん濫水の到達時間

